

■アバター市長で市政を身近に——草津市

滋賀県草津市は、毎月発行する広報紙の主な内容を、市長のアバター（インターネット上のキャラクター）が伝える動画を2024年12月から公開しています。動画やアバターならではの見せ方で親しみやすさを演出することで、学生など若い世代に対し、市政への関心をより高めてもらうのがねらいです。

広報紙×動画×アバター市長

若者との意見交換で大学生たちからの提案がきっかけ

動画「はしかわ市長の『くさつここがイチ推し!』」には、橋川渉市長のアバターがVチューバー（案内役）として登場。毎月1日に発行される広報紙掲載記事の中から主な記事をピックアップし、その概要やポイントなどを紹介しています。

若い世代の行政やまちづくりへの参加が課題となっていますが、そのため



広報紙掲載記事の中から主な記事をピックアップ。アバター市長がその概要やポイントなどを紹介する。下記は、「広報くさつ」2月号の紙面



ンゴト「free!」で、参加者から、「市長がVチューバーになってみてはどうか?」というアイデアが出されました。

同イベントは、学生や市民、行政や企業などさまざまな人たちが参加し、組織や年齢、立場などを超えてまちの課題に触れ、共有し、アイデアを出し合うことで、地域課題の解決に向けた活動を支援する取り組みです。

そうした中、昨年内で開催された、地域課題の解決を目指して学生や住民などが集うイベント「まちのジブ

2024年7月に市内にある立命館大学びわこくさつキャンパス（BK C）で開催された「第14回まちのジブ」には、橋川市長がプレゼンターとして登場。国の施策や草津市の取り組みについて概要や現状を説明しながら、「学生や若者が市政に関心を持ち、意見が言いたくなる、言いやすくなるアイデア」について参加者と意見交換しました。

その中で出されたのが「市長がVチューバーになる」というアイデアで、提案を受けた市は、具体的な手法を検討。動画で市長のアバターが登場してもらい、市の取り組みを紹介することにしました。

広報紙面と連動した構成話題に合わせてアバター市長も衣装替え

定期的な発信とするため、毎月1日

公開1カ月間で約1500回の再生で、高評価は36件。草津市が公開する動画の中では高い評価を得ています。

アバター動画のアイデアをくれた学生からはSNSで、「有言実行だ」といった書き込みがありました。市民からも、「紙面では伝わらない動画ならではの見せ方になってい

る」といった感想や、高齢者などから「字幕の文字が大きく、説明も分かりやすい」などの声が寄せられています。

アバターとして登場する橋川市長は現在5期目。滋賀県出身のアーティスト、西川貴教さんが草津市で毎年開催している「イナズマロックフェス」での開会宣言を2009年の初開催から



2月公開の動画から。話題やシーンに応じて変わるアバター市長の衣装にも注目



初回となった昨年12月公開の動画では、Vチューバー誕生の経緯を説明した

市長によるナレーションは、マイクとデジタルレコーダーを使用し、台本にそって収録。録音したナレーションをアバターの口の動きとリンクさせ、しゃべっているような動画にします。口の動きと音声が合わさった素材を本体の動画に組み込んで完成。最後に全体をチェックしてユーザーにアップします。

立アールのオープン、立命館大学BK CやJR南草津駅の30周年記念事業などの話題を紹介。アバター市長も話題に合わせて、和服や水着、駅員の衣装を着て登場し、解説しました。1月号の発行に合わせて公開された動画では、草津市出身で陸上・ハードル選手の本田亜美さんとの新春対談にちなみ、アバター市長がハードルに挑戦しています。

従来の発信にはなかった反響は動画やVチューバーならではの効果

広報課では、広報紙と連動した内容に、市長の音声とアバターの動きが付くことで、「映像ならではの見せ方ができている」と手応えを感じています。昨年12月に公開した初回の動画は、



1月公開の動画では、アバター市長が陸上のハードルに挑戦

動画やアバターの動きは、すべて職員が制作している



に発行する「広報くさつ」との連動を企画。発行に合わせて、アバター市長が特集などの概要を解説する内容としてした。

動画はすべて職員が手掛けており、画像処理や動画制作、アニメーション制作のソフトを使って作成しています。

「広報くさつ」編集会議の際に、紙面内容と連動した動画の内容を企画。紙面内容をベースに動画用に再編集して台本を作成します。アバター市長が動画を見ている人に向かって「イチ推しポイント」を紹介するスタイルに仕上げていきます。

画像制作では、紙面で使う画像のほか、担当課からも画像の提供を受け、動画用の素材を用意。市長アバターは、基本となる動作や表情を作成するほか、シーンに応じたコスチュームに着替えます。台本を字幕にして組み込み、シーンに応じて画像・動画切り替えを調整。BGMも入れたところで動画の大まかな流れが決まります。

「これまでの市政情報の発信では見られない方からの反応も、動画やVチューバーならではの効果と受け止めています」（広報課）

「大学生からアイデアをもらった際、おもしろいのでチャレンジできればと思った」と語る橋川市長は、「動画では、楽しい動きやいろいろな変装をしているので、親しみを覚えているからと思う。この活動を通じて、学生や若い世代が市政に関心を持ち、市政を身近に感じ、意見を言いやすいまちづくりができれば」と、新たな発信に期待を寄せています。

広報課では今後も、定期的な発信で市民への浸透を図るとともに、「草津市のことをあまり知らない市外の人などにもアピールすることで、まちの活性化につながるような広報を行ってきたい」と語っています。



●はしかわ市長の「くさつここがイチ推し!」
<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/koho/sns/kusatsu-channel/kusatsu-ichioshi/>